

第 48 回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議  
(The 48<sup>th</sup> Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health: APACPH)  
2016 年 9 月 17 日～19 日 帝京大学板橋キャンパス

シンポジウム一覧 日本語版

**学会第 1 日目 9 月 17 日(土)**

シンポジウム 1. 健康の社会的決定要因と健康格差 —研究成果から社会を変えるには?—

座長 : イチロー・カワチ ハーバード大学 公衆衛生大学院 教授  
福田吉治 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授

日本の健康格差に関する研究成果 —今後の課題と提案—  
近藤尚己 東京大学大学院 医学系研究科公共健康医学専攻 准教授

韓国の健康格差に関する研究成果 —今後の課題と提案—  
Youngtae Cho ソウル大学 公衆衛生大学院 教授

健康の社会的決定要因 —人々に身近な食と栄養の視点から—  
林 芙美 女子栄養大学栄養学部 専任講師

日本における子どもの貧困と家族の健康  
阿部 彩 首都大学東京 人文科学研究科社会福祉学教室 教授

シンポジウム 2. アジア太平洋地域の非感染性疾患 (NCD) と肥満予防

座長 : Colin Bell ディーキン大学医学部 准教授  
肥満予防に関する WHO 協力センター副所長

肥満予防のシステムアプローチ —アジア諸国での展開—  
Colin Bell ディーキン大学医学部 准教授  
肥満予防に関する WHO 協力センター副所長

マレーシアにおける肥満に関する政策とその効果  
Maznah Dahlui マラヤ大学医学部社会予防医学科 教授

スリランカにおける子供へのマーケティング軽減政策に関する報告  
Surenthirakumaran Rajendira ジャフナ大学医学部

フィジーにおける食品関連政策の支援  
Gade Waga  
フィジー国立大学 肥満と NCD 予防のための太平洋研究センター

ヴェトナムにおける学校・大学での肥満予防と評価に関する教育

Thi Hai Quynh Pham      ディーキン大学

日本における効果的な肥満予防とその評価

西 信雄      国立健康・栄養研究所国際産学連携センター      センター長

### シンポジウム3 持続可能な開発目標（SDG）のための学校保健アプローチの可能性と課題 —学校保健は学校と子どもの潜在能力をいかに高めるか—

座長： 小林 潤      琉球大学医学部 国際地域保健学教室 教授

持続可能な開発目標（SDG）のための教育と健康分野の協力 その可能性と課題

友川 幸      信州大学教育学部スポーツ科学教育 准教授

持続可能な開発目標達成のためのアジアでの地域学校保健ネットワークの強化

Pratap Singhasivanon      SEAMEO 事務局長      マヒドン大学熱帯医学部

エコヘルス教育と学校保健

朝倉隆司      東京学芸大学教育学部養護教育講座 教授

学校保健における非感染性疾患（NCD）

神馬征峰      東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室 教授

持続可能な開発のための教育（ESD）と UNESCO スクール

丸山英樹      上智大学グローバル教育センター准教授

### シンポジウム4. 公衆衛生の法律と倫理：

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた社会健康保険制度の法整備

座長： Hee Tae Suk, So Yoon Kim      延世大学医学部 医学法・倫理分野

社会健康保険の法的改革 各国報告

ヴェトナム	Gia Hau	ヴェトナム保健省
中国	Wang Chenguang	清華大学
モンゴル	Erdenekhuu Nansalma	

パネルディスカッション：社会健康保険の法整備 課題と教訓

Xu Ke	WHO 西太平洋地域事務局
Genevieve Howse	ラ・トローブ大学
Hernan L. Fuencalida-Puelma	世界銀行

## 学会第2日目 9月18日(日)

### シンポジウム 5. 統計的観点からみた保健医療のサイエンス (帝京大学薬学部国際シンポジウム)

大規模データからみる医薬品の有効性と安全性

森川 馨 帝京大学薬学部 教授

臨床試験における統計学的評価の重要性

長谷川貴大 塩野義製薬

ライフスタイル改善プログラムの実践的評価研究

山岡和枝 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 研究科長・教授

ビッグデータ解析による生活習慣病予防と今後の医療展開：呉市モデル

中尾睦宏 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授

社会疫学から捉えたヘルスサイエンス

Ichiro Kawachi ハーバード大学公衆衛生大学院 教授

### シンポジウム 6. アジア太平洋地域における感染症から人々を守るシステムづくり

座長： 田中 剛 内閣官房 国際感染症対策調整室 企画官

アジア・太平洋地域の感染症対策に関する保健医療システムの役割

錦織信幸 WHO 西太平洋地域事務局  
結核・ハンセン氏病対策課長

グローバルファンドは感染症の耐性菌対策システム構築をいかに支援するか

國井 修 エイズ・マラリア・結核対策基金  
(グローバルファンド) 戦略・投資・効果局長

耐性菌感染症対策システム構築：フィリピンの事例

Carl A. Antonio フィリピン大学マニラ校 公衆衛生学部  
保健政策管理学科 准教授

ほか

### シンポジウム 7. 持続可能な保健医療財政を支える経済分析

座長： 小林廉毅 東京大学大学院医学系研究科 公衆衛生学教室教授

政策策定に健康保険データ解析の貢献の可能性

谷原真一 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授

日本における健康保険レセプトデータ分析研究成果

杉山雄大 国立国際医療研究センター  
糖尿病研究センター 医療情報解析研究部 上級研究員

日本における保健医療政策評価のための経済分析

馬場園 明 九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座 教授

急速な高齢化社会での高齢者のための持続可能なヘルスケア

石崎達郎 東京都健康長寿医療センター研究所  
福祉と生活ケア研究チーム 研究部長

高齢化社会における効果的な健康保険データを用いた政策立案

Chen He 北京大学 公衆衛生大学院

## シンポジウム 8. 日本の UHC を目指した歴史と今後の課題

ファシリテーター 日本の教訓と他国への応用 共通課題とは？

高橋謙造 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 准教授

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に必要なこと：母と子の健康

中村安秀 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に必要なこと：コミュニティと地域住民のエンパワメント

佐藤 寛 アジア経済研究所 新領域研究センター 上席主任調査研究員

## シンポジウム 9 (特別講演) 21 世紀の公衆衛生の発展のための出版とコミュニケーションの作法

Colin Binns カーティン大学 公衆衛生大学院 名誉教授

Low Wah Yun マラヤ大学 医学部研究管理センター長

Asia Pacific Journal of Public Health 編集長

## 学会第 3 日目 9 月 19 日(月・祝)午前

### シンポジウム 10. 国境がない環境衛生：アジア太平洋地域の大気汚染

経済的発展と大気汚染や環境問題とのバランス

Huang Wei 北京大学 公衆衛生大学院

タイにおける大気汚染と人々の健康

Surasak Taneepanichskul チュラロンコン大学公衆衛生学部 教授

東京における大気中浮遊物質の減少理由：規制、技術革新、それとも経済不況？

原 邦夫 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授

日本におけるディーゼルエンジン排出ガス規制の貢献と大気汚染改善

森 一俊 帝京大学理工学部機械・精密システム工学科 教授

アジア・太平洋地域における大気汚染問題の解決に必要な研究の多国間協力

Bryany Titi Santi インドネシア・アトマジヤヤ大学

## シンポジウム 11. 災害に対するレジリエントな地域の創成と公衆衛生の取組

正しくはじめる : 日本の災害発生時の公衆衛生と医療対応 (理論と実践方法)

金谷泰宏 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長

母親と子どものための災害後の復旧・復興と開発

中村安秀 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

日本の DMAT における災害時の公衆衛生活動

鶴和美穂 国立病院機構災害医療センター臨床研究部 厚生労働省 DMAT 事務局

健康でレジリエントなコミュニティ構築のための国連仙台防災枠組 2015-2030 とバンコク原則

江川新一 東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 教授

アジア太平洋諸国における母子保健分野での災害プリペアドネス

—日本の大規模災害からの教訓を生かして—

吉田穂波 国立保健医療科学院 生涯健康研究部 主任研究官

## シンポジウム 12. ディーセントワーク 近日公開